

# 戦後日本デザインの軌跡

## 1953-2005 — 千葉からの挑戦

ラジオからハイブリットカーまで。



2006年4月1日(土)-5月28日(日)10:00-18:00

一般800(640)円/大学・高校生 560(450)円/中・小学生 240(200)円 ( )内は団体30人以上

千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art 〒260-8733千葉市中央区中央3-10-8 / TEL 043-221-2311(代) <http://www.city.chiba.jp/art>

主催:千葉市美術館 読売新聞東京本社 美術館連絡協議会 後援:千葉大学 千葉大学工学部 千葉大学工学同窓会 助成:財団法人地域創造 協力:社団法人日本インテリアデザイナー協会 日本デザイン学会  
協賛:花王株式会社 株式会社アイ・デザイン 株式会社イトーキ 株式会社INAX 株式会社エイヘクス 株式会社岡村製作所 サーモス株式会社 株式会社ジイケイダイナミクス 積水ライフテック株式会社  
ダイハツ工業株式会社 東陶機器株式会社 日機装株式会社 株式会社ノリソ 三菱自動車工業株式会社 三菱電機株式会社 ヤマハ発動機株式会社 株式会社黎デザイン総合計画研究所 X 天室水工 K.O.T.O.B.U.K.I

休館日:毎週月曜日  
祝日以外の金曜日は20:00まで  
入館受付は閉館30分前まで



宝くじは、広く社会に  
役立てられています。



三田村ナツミ  
 <ハイクラウンチョコレート>  
 1965年 森永製菓



矢崎克彦 <ユニカラー>  
 1990年 三菱鉛筆



アートディレクション 青木茂吉/  
 デザイン 藤代栄三郎・杉浦俊作  
 <エムジー5化粧品>  
 1967年 資生堂



Qデザイナーズ <キャストロン601>  
 1967年 コパル



奥谷康裕  
 <ケツメイシ「君にBUMP」ジャケットデザイン>  
 2004年 toy's factory



黎インダストリアルデザイン事務所  
 <営団地下鉄サインシステム>  
 1973年 帝都高速度交通営団

# 戦後日本 デザインの軌跡 1953-2005 — 千葉からの挑戦

現在私たちが「日本の美術」と呼ぶもの、とりわけ近世以前に生みだされたものの多くはかつて生活の飾りであり、暮らしを彩る意匠でした。衣服や調度の制作が手技から機械に替わり、その形や色が「デザイン」と呼ばれるようになって、日本人はもの作りに洗練された美意識を発揮し、その仕事ぶりは世界的に高い評価を受けています。

本展は、千葉大学工学部工業意匠学科の出身者たちによるデザインを集めたものです。千葉大学工学部は1921年に創設された東京高等工芸学校を前身とし、その伝統のもと全国的にもきわめて早い時期からデザイン教育に着手、戦後の経済復興期から高度成長期にかけて家電やインテリア、広告など幅広い分野に優れたデザイナーたちを送りだしてきました。展示内容は自動車やカメラ、公共サインなど約400点。1950年代から現在までの各時代を象徴する、懐かしくも新しいカタチの数々をご覧ください。

千葉市美術館  
 Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8  
 TEL 043-221-2311(代)  
<http://www.city.chiba.jp/art>

